opusdei.org

## 黙想:復活節第5主日 (C年)

黙想のテーマ:「十字架は栄 光への道」「私たちの愛はイ エスの愛の継続である」「愛 は家庭から始まる」

十字架は栄光への道

私たちの愛はイエスの愛の継続である

愛は家庭から始まる

弟子たちの足を洗った後、イエスは 沈黙を破り、食卓で人々に心を開か れます。「今や、人の子は栄光を受 けた。神も人の子によって栄光をお 受けになった。神が人の子によって 栄光をお受けになったのであれば、 神も御自身によって人の子に栄光を お与えになる | (ヨハネ13・ 31-32)。この言葉の豊かさは、大 祭司が自分のため、他の祭司のた め、そして最後には、イスラエルの 民全体のためにいけにえを捧げた、 ユダヤ教の贖罪祭の文脈で把握され ます。その目的は、イスラエルが神 と和解し、選ばれた民としての自覚 を回復することでした。

その夜、十字架上で自らを捧げる前の祭司として、イエスは御父に向かって祈りを捧げます。「祭司であると同時にいけにえであるイエスは、自分と使徒、そしてイエスを信じるすべての人々、あらゆる時代の教会のために祈るのです」때。ここ

で主が語っている栄光とは、神の御よいに完全に従うことです。「ことですような心構えをもち、この新しいなうとが、です。イエスの制造とは、一字架とは、十字架とは、この最高の大きであるとが、これでは、この最高の大きでで、一次ででは、このではます。ながまるとのようにで、がまるとのでは、からです」 [2]。

「真の愛は自分の殻を抜け出してあるよう要求するのでは高よう要求するのではいるのでは、その喜びの根は十字架のエスは、そのだ」は、これは、イを見れているのだ」は、いるのだ」は、味られてです。「十字架につけるたとしても、はいか主の真のもが、というはないないのを思いまりまりよう」では、とを悟りましょう」では、ことを悟りましょう」である。

イエスは使徒たちに、自分がこの世を去ろうとしていることを告げたとき(ヨハネ13・33参照)、新しい掟を宣言しました。「わたしがあなたがたを愛したように、あ互いに変し合うなさいなさい。互いに変し合うならば、それによってあることをが知るようになる」(ヨハネ13・34-35)。私たちキリスト信者のあるがイエスの愛に由来するものであるがイエスの間におけるイエスのとき、私たちの間におけるイエスのとき、私たちの間におけるイエスのとき、私たちの間におけるア

イエスがこの掟を「新しい」と言われたことに、私たちは驚くかもしれません。神は旧約で、すでに愛の定を伝えていたからです。しかし、その新しさは、この愛の形と起源にあります。新しいこととは、「イで対しなってです。このことが、私たちを新しい人

現存が続くのです。

間にするのです。それは、イエスがなさったように、他者のために命を捧げることを意味するからです。

捧げることを意味するからです。
「わたしたちの自我が主の中に入って行き、主と一つになることわたしきさせん。キリストがカラ2・はありません。のです。『新しいカランに変し、ません。それはキリスするのではありません。それはキリスすがではありません。それはキリスすまがの新しさ、キリストることに、対象ではるのです」
「同。

私たちの間に住まわれた神の子の愛は、実のところ、すべての愛の源です。 愛には限界がなく、すべての人を包み込み、困難をより愛するための機会に変えることさえできます。 聖ホセマリアの言葉によって、私たちは大胆に神に願い求めることができます。 「主よ、御身をお愛しする

とき私が持つべき愛を、お恵みくだ さい | เซเ。

イエスは私たちに新しい掟を与え、 ご自分の愛によって生きるよう、神 の国がこの世に来たことを示す信頼 できる効果的なしるしとなるよう. 私たちを遣わされました。 私たちの 愛のあり方によって、私たちは周り の人々に、本当にすべてのものが新 しくされたことを示すのです。 1世 紀の異教徒たちは、キリスト者が示 したこの新しい愛徳に驚き、こう叫 びました。「彼らがいかに互いに愛 し合い、互いのために死ぬ用意がで きているかを見よ! | トッッ 「彼らは万 いを知る前から、互いに愛し合って いるしま

カルカッタの聖テレサは言いました。「愛は自分の家から始まる。まず自分の家族、次に自分の街。 遠く

にいる人を愛すると言うのは簡単で すが、共に住んでいる人を愛するの はそれより簡単ではありません| gg 。私たちはまず、身近な人への愛 によって、イエスから受けた愛を示 します。一致するものを探し求め、 違いを乗り越えることによって、キ リスト者はこの愛を具体的な方法で 表現しようとします。「イエス自 身、非常に具体的なことを私たちに 語っています。飢えた人に食べ物を 与えること、病人を見舞うこと…具 体的なことが何もないと、イエスの メッセージの中心がどこにあるのか よく理解できず、幻想の上に成り立 つキリスト教を生きることになりま す | 「10」。

キリストがなさったように他者を愛することは、キリストご自身が私たちに与えてくださる力、特に聖体、においてのみ可能です。 聖体において私たちの心は大きくなるのです。マリアもまた、御子とともに、あら

ゆる障害を克服することのできる、 この寛大で全き愛の模範です。

- [1] ベネディクト十六世、一般謁見 演説、2012年1月25日。
- [2] 同。
- [3] 聖ホセマリア『鍛』28番。
- [4] フランシスコ、「お告げの祈り」での言葉、2020年8月30日。
- [5] 名誉教皇ベネディクト16世ヨゼフ・ラツィンガー、里野泰昭(訳) 『ナザレのイエスII:十字架と復活』、春秋社、2013年、79頁。
- [6] 聖ホセマリア『鍛』270番。
- <u>[7]</u> テルトゥリアヌス『護教論』39 章。

- [8] ミヌキウス・フェリクス『オクタヴィウス』9章。
- [9] マザー・テレサ『マザー・テレ サ語る』。
- [10] フランシスコ、説教、2014年1 月9日。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-fukkatsusetsu-shujitsu5c/(2025/11/20)